

夢と現実そして豚

法律学科3年 長谷川 浩也

夏の晴天の下、畑仕事をしていた

大根、人参、キャベツ

顔を塩水が流れる中、

仲間と雑談を交わし

モグラやミミズに挨拶をし

休息におにぎりを頬張り

手際よく収穫していく

採れたての野菜は

その日の夜に仲間と一緒に食べていく

そして今日が終わる

この豚は目を覚ました

畑などない

大根、人参、キャベツなどもなく

あるのは養豚場とその中の豚のみ

周りの豚も

そして自分も

きまった時刻に餌を食べ

きまった時刻に昼寝をする

きまっている時間

きまっている一日

きまっている一生

ただ終着駅を待つだけ

今日も餌を食べ

昼寝をし

そして闇の中深い眠りにつく

木でできた筏に乗り

海へ漁にでかける

筏の上からマグロと戦い

水中に潜ると

なぜか心が躍りだす

こんな世界もあったのか

色とりどりの魚たち

つられて一緒に泳ぎだす

様々な形のサンゴ礁

疲れた体の休息場

釣ったマグロを持ち帰り

仲間と一緒に食べていく

そして今日がおわる

この豚は目を覚ます

筏などない

海、マグロなどもなく

あるのは養豚場とその中の豚のみ

きまった時刻に餌を食べ

きまった時刻に昼寝をする

今日は月に一度の

豚が連れて行かれる日

どこへ行くかはわからないが

おそらくそこが終着駅

ついに自分も選ばれて

狭い箱に入れられる

ここにはもう戻らない

ここにはもう戻れない

この豚はふと思う

明日は何をしよう

明後日はどこへ行こう

そして闇の中深い眠りにつく